

ヘッジ会計（続）

【③のケース】 予定取引が利付き負債の発生である場合（将来の金利のキャッシュ・フローを固定するためのヘッジ）

A社は6ヶ月後の6月1日に1億円の固定金利借入（期間6ヶ月）を予定しているが、それまでの間に金利が上昇することを懸念している。そこで、A社は、

- ① 2002年12月1日に契約金額1億円の6ヶ月金利先物を95.5で売り建てた。
- ② 2003年3月31日の決算日に金利先物を値洗いした。そのときの金利先物の時価は95.2円であった。
- ③ 6月1日、1億円の借入を実行した。そのときの金利は年率5%であった。このとき、金利先物を買戻し決済した。
- ④ 11月30日、元金の支払いをした。

- ① 金利先物売り建て契約日（証拠金の処理は省略）
仕訳なし（金利先物の時価ゼロ）

- ② 決算日（金利先物の値洗い。繰延ヘッジ会計の適用）

（金利先物差金）	150,000	（金利先物利益）	150,000
----------	---------	----------	---------

（金利先物利益）	150,000	（繰延先物利益）	150,000
----------	---------	----------	---------

$$100,000,000 \times [(95.5 - 95.2) / 100] \times (6 / 12) = 150,000$$

- ③ 借入実行日、金利先物の買戻し決済

（現金預金）	100,000,000	（短期借入金）	100,000,000
--------	-------------	---------	-------------

（金利先物差金）	100,000	（金利先物利益）	100,000
----------	---------	----------	---------

（金利先物利益）	100,000	（繰延先物利益）	100,000
----------	---------	----------	---------

（現金預金）	250,000	（金利先物差金）	250,000
--------	---------	----------	---------

$$100,000,000 \times [(95.2 - 95.0) / 100] \times (6 / 12) = 100,000$$

- ④ 利払日（繰延先物利益を支払利息の控除に充てる）

（支払利息）	2,500,000	（現金預金）	2,500,000
--------	-----------	--------	-----------

（繰延先物利益）	250,000	（支払利息）	250,000
----------	---------	--------	---------

$$100,000,000 \times 0.05 \times (6 / 12) = 2,500,000$$

実質借入コスト = $2,500,000 - 250,000 = 2,250,000$

実質調達金利 = $(2,250,000 / 100,000,000) \times (12 / 6) = 0.45$



ヘッジ手段の利益（金利先物利益）をヘッジ対象の金利キャッシュフロー（支払利息）から相殺控除することによって、ヘッジの効果（金利キャッシュフローを先物契約約定時のコストで固定できたという効果）を損益計算書に反映させる。

(参考) 金利先物取引の仕組み

①あらかじめ、約定した金利に係る金融指標の数値と、将来の一定時期における実際の当該数値との差に基づいて算出された金銭の授受を約束する取引

②価格表示形式： $100.00 - \text{年利率} = \text{金利先物価格}$

年利率 4.5% のとき： $100.00 - 4.5 = 95.5$

③先物取引の計算

取引単位 1 億円 (1 枚)、 計算単位 1 ティック (0.01)

3 ヶ月短期金利先物の場合の 1 枚あたりの損益計算

$$100,000,000 \times (0.01 / 100) \times (3 / 12) = 2,500 \text{ 円}$$

A 社は 3 ヶ月後に 1 億円の固定金利借入 (期間 3 ヶ月) を予定しているが、この先 3 ヶ月間に金利が上昇することを懸念している。そこで、A 社は向こう 3 ヶ月間の金利上昇リスクを回避するために契約金額 1 億円の 3 ヶ月金利先物を 95.5 で売り建てた。3 ヶ月後、金利は予想通り上昇し、A 社は年率 5% で 1 億円借り入れると同時に、金利先物を 95 で買い戻した。

金利先物取引差益 (買戻益)

$$100,000,000 \times [(95.5 - 95.0) / 100] \times (3 / 12) = 125,000$$

A 社の実質的借入コスト

$$\text{表面借入コスト} = 100,000,000 \times 0.05 \times (3 / 12) = 1,250,000$$

$$\text{実質借入コスト} = \text{表面借入コスト} - \text{金利先物取引差益}$$

$$= 1,250,000 - 125,000$$

$$= 1,125,000$$

A 社の実質調達金利

$$(1,125,000 / 100,000,000) \times (3 / 12) \times 100 = 4.5 (\%)$$

会計処理

金利先物 (繰延) 損益はヘッジ対象である利付資産・負債の利息認識と対応させ、当期の利息の調整項目として扱う。

①金利先物を売り建てたとき (契約金額の 8% の証拠金の差入)

(差入証拠金)	8,000,000	(現金預金)	8,000,000
---------	-----------	--------	-----------

②借入を実行し、金利先物を買い戻し決済したとき

(現金預金)	100,000,000	(短期借入金)	100,000,000
--------	-------------	---------	-------------

(支払利息)	1,250,000	(現金預金)	1,250,000
--------	-----------	--------	-----------

(現金預金)	125,000	(金利先物利益)	125,000
--------	---------	----------	---------

(金利先物利益)	125,000	(支払利息)	125,000
----------	---------	--------	---------

(現金預金)	8,000,000	(差入証拠金)	8,000,000
--------	-----------	---------	-----------